



侃斯達篤

卷八

ヤ 4  
1435  
8





侃斯達篤卷之八

侍醫法眼

坪井良信良譯

結石

結石トハ、骨狀或ハ石狀ナル堅硬質ノ病性製造

物ナリ、是ニ由テ發スル所ノ諸症ヲ總稱シテ、結

石病ト云フ、

結石游離シテ、空腔内、流液中ニ在ルアリ、或ハ

組織中ニ生スルアリ、甲種ノ結石ト稱シ、

乙種ヲ病性化骨ト稱ス、膜質ノ部ニ乙種ヲ生

侃斯達篤卷之八

結石

刀口瘻



其遺骸者、  
スルハ、屢見ル所ニテ、必ス形質不全ナリ、組織  
膜狀質内ニ加爾基分游離シ、乾固シテ凝結シ、  
尿管閉塞シ、彼此ノ部ニ脂肪ヲ分泌ス、故ニ滲  
出、若クハ尿管中ノ凝結ニ續發スル凝固性ノ  
纖維質、加爾基增多、所謂沕乙膜、甲状腺、心室障  
膜、動脈、靜脈、化骨、纖維質腫、癌腫、等皆此種ニ屬  
ス、但シ尋常骨質トハ同シキ者ニ非ス、又血液  
中加爾基分游離シ、加爾基質ヲ增多スルハ、腺  
病條ニ論スルカ如シ、此時常ニ多クハ脂肪及  
結晶體ノ分解スルアリ、

解剖症候

今論スル所ノ游離セル結石ハ、或ハ砂トナリ、尿  
石、或ハ堅質物トナル、其大小形狀、色彩等、數般ナ  
リ、而シテ性質亦一ナラス、今之ヲ詳説セズ、唯集  
合ノ大要ヲ記ス、其組織有機性ニ非サレ、而シテ  
單純無機結晶ニモ非ス、但シ内部ヨリ發育セス  
ノ、膏ニ新物質外部ヨリ添加スルニ由テ、増大ス  
ルト、又細胞狀ノ體格トニ據レハ、又有機性トハ  
為シ難シ、或ハ稀ニハ結晶アルヲ見ル、層ヲ為シ  
重疊スル者多シ、内部ノ組織數般ノ異アリ、或ハ

凡行言人  
結石  
刃日書

緻密、或ハ同等、或ハ纖維狀、或ハ球狀ナリ、或ハ貝介ノ如ク、片葉ノ如シ、是レ其結石ノ成分、及ヒ之ニ合和スル物質ノ舍密性、異ナルニ由ルナリ、結石ノ舍密性、極テ差異アリ、最モ多キ成分ハ左ノ如シ、

- 一 滋養質、纖維質、卵白、又之ヨリ生スル膠狀質、角狀質
- 二 脂肪、エライン、マルガリン、及マルガリン酸、コレステアリン
- 三 色分、黑色分、褐色分、膽汁色分
- 四 尿酸、尿酸塩、尿酸諸母尼亞
- 五 加爾基塩、是レ諸種ノ結石中最要分ナリ、
- 六 磷酸加爾基、炭酸加爾

基、尿酸加爾基、**六** 磷酸諸母尼亞、麻屈涅失亞、是レ

最モ多シ、

結石アルノ部ニハ、諸般ノ變異、燉衝、膿化、滋養過多、變性等ヲ發ス、是レ壓迫ト、刺衝トニ由ルナリ、又其部ハ分泌及ヒ排泄ヲ變ス、

症候

結石ノ生スル、其初ハ知ルヘキ所ナシ、唯形狀著大トナルニ及テ、始テ病性症候ヲ發ス、則チ左ノ如シ、

一 器械性障害、留連スルアリ、一時ナルアリ、結石

ニテ其部ノ排泄管ヲ閉塞スルニ由ル、尿石ハ膀胱頸ヲ塞キ、膽石ハ輸膽管ヲ塞クカ如シ、

二異常物ニテ其部ヲ刺戟スルニ由テ、唯ニ神經

機能ヲ變スルアリ、腎石ニテハ、閃發スルカ如キ

感覺尿道ニ徹シ、膽石ニテハ、疝痛、腎石、膀胱石ニ

テハ交感ニ由テ痙攣ヲ發ス、或ハ多血、焮衝、粘液

漏泄、膿化等ノ物質變化ヲ發スルアリ、

原因

結石ヲ生スル所以考フ可ラス、但シ

一流液中、尋常成分、其量其質ヲ變スル者、或ハ新

成分アリテ凝固シ易キ性アリ、或ハ其量過多ナ

レハ、久シク液中ニ溶化シ存スルヲ能ハス、終ニ

沉降ス、

全身血液總テ此性ヲ具スルヲアリ、又一分泌液

ノミニ於テスルアリ、尿、膽汁等、

二動物性成分、卵白、粘液、膠液、接合ノ媒ヲ爲シ、土

質ヲ集積シテ、土砂ノ如クナラシメ、沉澱ス、

ロキスタンスケル氏ハ、結石ヲ分テ二種トス、

一ハ液中彼此ノ成分沉降シテ生スル者、真結

石、但シ外來、若クハ内部ニ新成スルノ物質、球

狀體凝血等相助久、一ハ水分蒸散シ、隨テ其液稠厚凝結シテ、空腔、或ハ尿管ノ内外ニ生スル者ナリ、皮腺、粘液膜腺、扁桃腺、鼻内、咽喉、腸内、膀胱等ノ結石、

有機性流液ハ、結石トナルノ性アリ、

一 小兒、及ヒ高老ノ年齢ニハ、此病極テ多シ、二 某

敗血病、殊ニ痛風、佝僂病、腺病、抑モ痛風ト結石トノ親和ハ、古來稱スル所ナリ、痛風ノ加爾基排泄ト、尿石トハ、其集合相同シキ者屢之アリ、痛風ノ發作ト、尿石排泄ト、相襲替スルト常ニ之アリ、

佝僂病兒ノ結石ハ、磷酸加爾基土ニ成ル、腺病患  
者ノ結石ハ、蓆酸ニ成ル、此結石ハ腺病人如ク、其  
素因ヲ血族ニ遺傳スルナリ、三 地方病性、亦大ニ  
關係ス、一地方ニ在テハ、結石病多キト、他地ニ過  
久、而ノ其真ノ原因ハ、如何ナルヤ之ヲ知ルトナ  
シ、察スルニ、諸般ノ原因、相合併スル者ナルヘシ、  
結石病ハ、濕潤卑低ノ地ニ多ク、乾燥温暖、山岡ノ  
地、又回歸線下ニハ少ナシ、蒲桃酒ヲ飲ム地ニハ  
多ク、麥酒ヲ飲ム地ニハ少ナシ、殊ニ新製酸性ノ  
酒、或ハシデルヲ多用スル地ニ多シ、

然ルニテキストル氏曰ク、佛蘭西酒、殊ニ野生  
 蒲桃ニテ製スル者、又公斯坦丁湖製ノ酒ハ結  
 石ニ良効アリ、蓋シリンダウ、及其近傍ノ地ニ  
 ハ、百年來結石患者アルヲナシト  
 粗糙、難消化、酸敗シ易キ食物ヲ常用スルノ地、硬  
 水ヲ飲用スル地ニハ結石多シ、  
 ヘウレンケル氏曰ク、尿石ハ歐羅巴ニテハ地  
 方病タリ、新製加爾基ヲ用フル家屋、殊ニエラ  
 カルク、結列土ヲ用フル者ニハ、結石多ク、貝殼  
 加爾基ヲ用フル者ニハ少ナシ、

骨菲、茶水ヲ飲料トナシ、多用スルノ習俗トナリ  
 シ以來ハ、結石病大ニ減少ス、抑モ結石病ノ地方  
 病トナルハ、上ニ記スル敗血病ノ地方病タル者  
 ト、大ニ相關係ス、  
 結石ノ刺戟ニ由テ、粘液漏泄過多、滲出性焮衝ヲ  
 發シ、更ニ集合性ノ物ヲ分泌ス、  
 食餌、攝生等ノ關係スル所以ハ、局部症條ニ説ク  
 ヘシ、  
 經過、及終歸、  
 結石ヲ生スル機能ハ、持續スル者ニ非ス、諸症發

作ノ間歇アルヲ痛風排泄ノ間歇アルカ如ク又  
諸種ノ結石層々重襲スルヲ恰モ木理ノ如クナ  
ルヲ見テ知ルヘシ

自然ニ發スルノ終歸ハ一結石ヲ漏泄ス是レ其  
結石空腔内ニ游離シ其部ロヲ外部ニ開ク者交  
感運営ニ由ル等ニ之アリ二膿化或ハ腫瘍ニ由  
テ結石ヲ排去ス三患部結石ヲ離解ス是レ其結  
石衣膜ニテ被包スルニ由リ或ハ結石ト觸レ接  
スル部ノ表面覺機遲鈍トナルニ由ル四結石溶  
解五結石ノ刺戟ヲ受ル部腫瘍變質壞疽出血六

諸般ノ續症ヲ發シテ死ニ陥ル者アリ

治法

根治法ハ敗血ヲ復治シ膠狀集合質ノ分泌ヲ防  
クニ在リ直治法ハ結石ヲ排除スルナリ姑息法  
ハ結石ニ由テ發スルノ諸症ヲ鎮定シ患部ヲノ  
異物ニ接スルノ覺機ノ遲鈍トスルナリ  
一敗血ヲ復治スルニハ結石ヲ生スル所以ノ原  
ト相反スルノ攝生ヲ保セシム結石病各自ノ症  
ハ各部症條ニ詳説スヘシ但シ凡ソ飲液ヲ多用  
シ以テ分泌ヲ催進シ液中ニ生シ易キ沉澱ヲ減



少レ、又其結石ヲ動搖シテ、成形スルヲ勿ラシム  
ヘシ、最佳ノ碎石劑ハ、亞爾加里品ナリ、

炭酸加里、及次炭酸加里、一日ノ量、大畧半錢、ハ  
ルコ子ル氏ハ、惡臭亞爾加里水ヲ賞用ス、

方、次炭酸加里、一錢ヨリ、セルチエル水、三十  
二錢マデ、セルチエル水、六分、右每

用二三酒盞、一日三回、但シ次炭酸加里、三氏、至  
四氏、至

ヲセルチエル水、一盞ニ和シ、每一時ニ用フルヲ  
更ニ佳ナリトス、

炭酸曹達、及次炭酸曹達、  
方、炭酸曹達、半錢、純精酒石、沙糖、各一  
右一劑ト

ナシ、一日三劑ヲ服ス、ヒコヘラ  
又方、石鹼、炭酸曹達、睡菜越幾斯、各適、每粒二氏

ノ丸トナシ、每服三丸至十九、一日三回、  
炭酸曹達水方、炭酸曹達、半錢、セルチエル水、一盞

ニ溶和シ用ス、  
炭酸麻屈涅失亞、每用半錢、一日三回、

加爾基水、一日半斤至一斤、漸次ニ增多ス、單用、

或ハ乳汁、又肉羹汁ヲ和用ス、  
蓬砂、一日半錢、

單用、或ハ炭酸、或ハ鑛水ニ和用シ、且ツ飲液ヲ多

凡所... 結石

用シ、以テ諸排泄ヲ催進シテ、藥カヲ佐クヘシ、  
 ハッレングル水、ゲールナウエル水、ウィルヂュンゲル  
 水、セルチュル水、カル、スバット、ヒセー、エムス等  
 ノ温泉ハ、最モ効アリ、

從來賞用スル所ノ碎石品、ロイフ氏方、ヒス  
 テペンス氏方等多ク  
 ハ、亞爾加里配合劑ナリ、單純亞爾加里ハ、速カニ  
 消食機ヲ害ス、炭酸諸塩ハ、長服ニ宜シ、炭酸加里、  
 炭酸曹達ノ如キハ、其効偉大、優カニ消化シ難キ  
 麻屈涅失亜、及ヒ加爾基諸劑ニ勝ル、每粒二  
 人  
 粘液漏泄、焮衝等ニ由テ、局部ノ膠狀集合質、分

泌增多シ、土質分ノ集合ヲ促ス者ニ於テ其分  
 泌ヲ減少スルハ、則チ結石根治法ノ一ト云フ  
 ヘシ、夫レ拔爾撒謨劑、烏白烏爾識、又硫黃拔爾  
 撒謨ト、帝列并底那油ノ合劑ハル  
 ムル油ハ、直チ  
 ニ其部ノ分泌ヲ減少スルカ故ニ、膀胱結石ヲ  
 治スルノ効大ニ名譽アリ、

二結石排除ハ、其空腔内ニ在テ游離スル者ニハ、  
 排泄力ヲ催進シ、膽石ニハ下劑、吐劑、腎石ニハ震  
 掉、膀胱石ニハ利尿劑、以テ効ヲ得ルハ少ナシ、妄  
 用スルト勿レ、若シ夫レ良能未夕排除スルノ道

ヲ求メサルニ方テ、強テ之ヲ促サントスレハ、却テ衝動ニ過キテ、焮衝、壞疽、破裂ヲ誘起スルコトアリ、

或ハ曰ク、既ニ凝結スルノ石質モ、頻リニ藥液ヲ灌注スレハ、豈ニ溶解スルコト勿ンヤト、然レモ今人エヲ以テ器内ニ於テ試ムル如キニハ、非サルヘキコト知ルヘシ、之ヲ溶解スルニハ、舍密性法方ヲ以テス、例之、尿酸結石ニハ、垂爾加里ヲ以テシ、磷酸、又、修酸結石ニハ、礦酸溶液ヲ以テスルカ如シト、但シ此説ハ理學ニ基ク者ニノ、之ヲ實驗ニ

徴スルニ、必シモ然ラス、且ツ結石數層ノ片アリ、  
テ、每層其質ヲ異ニスル者アリ、

近今賞用スル碎石諸劑中、ユレ氏炭酸碎石方ヲ最一トス、又尿通困難ナルニ用フル諸方、マリインバデル、コレウスブロン子ン、ヒリ子ル水等ハ、炭酸塩ヲ含有スル者ナリ、夫レ炭酸塩ハ、結石ト大親和カアリテ、之ヲ變シテ忽チ炭酸結石トナラシム、故ニ諸般ノ尿酸塩ヲ溶解スルノ峻カアリ、ユレ氏曰ク、炭酸諸塩ハ尿酸結石ヲ溶解スルノ力、確ニノ且ツ峻ナリ、膀胱

内ニ注入スルヲ最佳トス、

尿道、唾管、又關節ニ於テ、石質ヲ排除スルヲアリ、

三 結石ヲ排除シ能ハサル者ニハ、姑息法ヲ施ス

ヘキノミ、宜シク症ニ應シテ、治ヲ處スヘシ、焮衝、

出血、痙攣、等、

軟解

各部ノ硬軟ハ、之ヲ成形スル固形流動兩部ノ比

例ニ由ル所ナリ、其比例適宜ナルハ健康體ナリ、

流動部過多ナレハ軟解トナリ、固形部過多ナレ

ハ硬結トナル、

軟解スル所以、一 器械ノ質中、流動部過多、二 流動

部增多スルニ非サレバ、固形部減少スルアリ、

流動部增多スルハ、諸部質中、血液、沴乙、膿等ヲ吸

収スルヲ盛ナルニ由ル、

流動部增多スルニ非サレバ、固形部減少スルハ、

細胞ヲ生スル一少ナク、脂肪變性或ハ之ヲ吸収  
レ、且ツ其部滋養減少スルニ由ル、

此原因ノ彼此、常ヲ失スルニ隨テ、其品類區別  
數般アリ、

- 一 多血軟解
- 二 水樣軟解
- 三 膿狀軟解
- 四 寒壞疽
- 性軟解
- 五 吸收增多軟解、即滋養減少軟解
- 六 腐敗性軟解、

故ニ軟解ハ、器械ノ解剖性症ノミ、之ヲ生スル  
ノ原因極テ許多ナリ、諸種ノ多血、諸種ノ湧乙  
分泌增多、諸種ノ膿化、皆軟解ト合併シ、但レ此

諸症ヲ發スル所以ノ原因、亦數般ノ別アルカ  
故ニ、軟解ノ本態ヲ知ル一未タ詳ナルヲ得ス、  
今夫レ妄リニ臆説ヲ主張シ、病機抵抗ヲ發ス  
ル許多ノ諸因ヲ取ラスノ、唯器械ノ凝収力減  
少ノミニ注意シ、單一ニ前發焮衝ノ續症ナリ  
トスルハ、焮衝ヲ信スル一深キニ過クト云フ  
ヘレ、

一 焮衝性軟解、佛蘭西某氏ハ、腦及ヒ肺ニ發スル  
者ヲ赤色軟解、赤色腫起ト稱ス、其原因、症候、焮衝  
ニ同レ、患部固ヨリ軟脆ナル者ニ於テハ、軟解ス

ル一愈顯著ナリ、血液脈管中ニ存スルアリ、又其部ノ實質中ニ漏泄スルアリ、或ハ滲出シテ集積スルアリ、周圍ノ組織ニハ漏泄スルノ血液浸漬シ、其色數般、鮮紅ヨリ黒色ニ至リ、黒色ヨリ黄或ハ灰白ニ至ル、脾ノ焮衝性軟解ハ、組織赤色ノ糜狀トナル者屢之アリ、

二水様軟解、夫レ何レノ部モ、沔乙液集積スレハ、軟解スル者ナルカ故ニ、若レ其沔乙液、久シク浸漬シテ、且ツ其部固ヨリ軟脆ナレハ、速カニ軟解ス、是レ脊髓、腦髓ニ於テ見ル所ナリ、沔乙狀軟解

ハ、其部必ス色ヲ變ス、

三膿狀軟解是レ佛蘭西人稱スル所ノ灰白軟解、黄色軟解ト同シ、膿液患部ヲ浸漬スレハ、其部漸ク軟解シテ遂ニ全ク消滅ス、膿液集積スレハ、遂ニ膿腫トナリ、又或ハ組織中ニ消散スル者、亦屢之アリ、此種ノ軟解所謂灰白色焮衝、肺、腦ニ於テ之ヲ見ル、是レ軟解ノ原因ヲ焮衝トスル説ノ起ル所以ナリ、膿腫ニ由テ筋質軟解スル者アリ、四寒壞疽性軟解、各種ノ腫瘍、子宮壞疽、肺寒壞疽ニ於テ之ヲ見ル、凡ソ機性體溶崩スルハ、必ス先

ツ軟解ス、病性成形物、腺腫、癌腫、海綿腫ノ如キ、其全然溶崩潰爛スル者、皆然リ、  
五、滋養減少ト、軟解ト合併スル者、屢之アリ、滋養減少、動脈閉塞、神經機能廢止、細胞體、脂肪變性凝結、皆之ニ屬ス、所謂黃色腦軟解、心藏脂肪狀軟解、麻痺筋軟解等ナリ、  
六、腐敗ハ、無機性含密力偏勝シテ、有機體質溶崩スルナリ、軟解セスノ溶崩スル者アルナリ、腐敗性軟解是ナリ、雷電、麻酔劑、蝮蛇毒ハ、此種ノ軟解ヲ發ス、

又游離スル酸質ニ由テ、軟解ヲ發スルアリ、胃底ノ糜狀軟解、加爾基塩缺乏シテ、骨質軟解スル等是ナリ、  
各部發スル所ノ軟解ノ度ハ、其固有ノ硬軟原因ノ強弱ニ由ル、軟解スル部ノ組織尚見ルヘキアリ、或ハ有機體變質シテ、無形ノ糜狀トナルアリ、夫レ既ニ固有ノ凝収力ヲ失スルノ部ハ、決メ再ヒ其舊ニ復スルヲ能ハサル者ナルヤノ疑團アリ、但レ上ニ記スルノ理ヲ以テスレハ之ニ對フルヲ難カラス、曰ク、其部組織ヲ失シ、啻ニ軟解ス

ルノミナラス、溶崩スル者モ、或ハ潰爛ノ部ヲ吸  
収シ去リ治愈シテ斑痕ヲ遺ス者アリ、然レ疔潰  
爛部ノ組織ハ、再ヒ健全ノ凝収力ヲ得テ、能ク舊  
ニ復スル者ニハ非ス、但シ其軟解、唯血、肉、乙、或ハ  
膿ノ浸漬スルニ由ル者ナルキハ、或ハ能ク健全  
ノ凝収力ヲ得ルニ至ルコトアリ、是レ實驗シテ知  
ル所ニテ、其部流液ヲ吸収シ去リ、其浸漬スルノ  
冗液ヲ脱スルニ由ルナリ、

局部軟解シテ生活間ニ發スル所ノ諸症、次件  
ニ過キス、一解剖視ル所ノ軟解ニ根基スル病

機抵抗諸症、二患部機能多少障害セララル、軟解

進テ潰爛スルニ至レハ、全ク機能ヲ失ス、

以上説ク所ニ據レハ、軟解ハ器械實質ノ變ノ

ミ、有機物質ノ變ノミ、故ニ唯機能ヲ以テ説ク

ヘキ獨成ノ疾病ト思フコト勿レ、固ヨリ他病ノ

續症ナリ、故ニ直子ニ之ヲ治スヘキノ法ナレ

其原因タル刺衝、燬衝、滋養減少等ニ就テ、治ヲ

處スヘシ、



硬結

硬結ハ機性體ノ固形部增多シテ、流動部ニ過越  
シ、隨テ凝収非常ニ增多スルナリ、或ハ他病ノ續  
症ニテ、機性體ノ變常ナルアリ、

硬結ヲ生スル所以、一固形成分增多、二流動成分

減少スル是ナリ、

一器一部ノ硬結ヲ生スル、一燼衝ノ續症、殊ニ纖

維質滲出凝固シ、組織ヲ増息スルニ由ル、例之、肝

藏硬結、及癌腫、又加爾基塩游離シ、加爾基增多、或

ハ化骨、二局部滋養過多、脾ニ於テハ固成分大ニ

增多スルヲアリ、三滋養減少、局部萎縮ス、四局部  
組織中癌腫質排泄、

真ノ硬結ト、他病ノ一症ナル假硬結トヲ混ス  
ルヲ勿レ、肝藏腫起レテ、季肋下ニ突出スルモ、  
其硬結タルヲ決レ難レ、脾及ヒ子宮腫起、亦然  
リ、此ノ如キ假硬結ノ部ヲ截斷スレハ、多クハ  
血、汚乙、膿ヲ漏泄ス、故ニ諸部ノ牽張スル者ヲ  
見テ、敢テ妄リニ真硬結ナリトスルヲ勿レ、  
硬結スル部ノ色彩、形狀、又其經過、症候、及ヒ治法  
ハ自ラ其原因、部位等ニ隨テ差異アリ、之ヲ枚舉

スルハ要ナレトス、局部症條下ニ於テ、之ヲ説ク  
ヘレ、



生息スル細蟲類ナリ、然ルニ兩族獸久レク人  
身内ニ保生シ、諸般ノ疾患ヲ發スルヲアリト  
スルノ説アリ、是レ妄談ノミ、信ス可ラス、ベル  
氏<sup>ド</sup>之ヲ實驗スルニ、我地方ノ兩族獸ハ、人身體  
内ノ溫度、列氏ノ二十九度ニ接スレハ、二時乃  
至四時以外ハ生ヲ保スルヲ得ス、ベルトル  
ド氏ノ驗スル所ニテハ、此溫度ニ接スレハ、忽  
チ其形質ヲ失スルカ故ニ、固ヨリ養育ヲ得ル  
ヲ能ハス、

古人謂ク、寄生ハ固有ノ生殖機ニ由テ、變性セル  
機性分ヨリ成ル所ナリト、然レ氏是レ必ス卵子、  
或ハ稍發育スル體ニテ、身體内外ニ接シ來リ、而  
ノ之ヲ發育スルニ適宜ナル地ヲ占ムルニ及テ、  
保生ヲ得ル者ナリ、故ニ其發成スルノ原ハ他ノ  
植物及ヒ動物生殖ト差異アルヲナシ、然レ氏機  
性體ノ病狀、或ハ能ク身體ノ内外ニ在ル寄生ヲ  
發育スルニ足ルヘキ地ヲ賦與スルヲアリ、是レ  
粘液膜ニ生スル贅物ノ迅速ニ成育スル者アル  
ヲ見テ知ルヘシ、

一植物性寄生

凡ソ木耳類、殊ニ線狀木耳類是ナリ、而ノ顯微鏡  
 ヲ以テ纜カニ視ルヘキノミ、其發生スルモ、發育  
 スルモ、塊狀、藥狀ナルノミ、之ヲ催進スル者ハ、粘  
 液滲出ト、溶解泡釀、腐敗、寒壞疽ナリ、但シ其原未  
 タ之ヲ知ルナシ、又此寄生ヨリ、刺戟、衝動ヲ起  
 シ、其部續發諸症、焮衝、膿化、等ノ原トナルナリ、  
 其部位ハ、必ス皮膚ト、粘液膜トナリ、

例之、頭瘡、慢性口吻疹、夏日斑、口内、咽喉、食道ノ  
 粘液膜上、滲出液中ニ發スル木耳狀ノ物、又寒  
 壞疽性腫瘍、腱結節、腺病患者血腫中ノ發微、皆

之ニ屬スヘシ、

二動物性寄生

外部ニ在ル者ハ、蚤、虱、軟虱、疥癬蟲、毛虱、内部ニ在  
 ル者ハ、腸蟲、アスカリス、トリュムブリコイデス、オキ  
 セーウリス、フルミキユラリス、クエニア、及ボトレ  
 イセパリス、トリニセパリス、ヂスバル、又腎藏蟲、  
 回歸線下地方住民ノ皮下組織内ニ生スルヒラ  
 リアミジ子シス、ヒラリアオキユリヒュマニ、隨意  
 筋ニ生スルトリシナスヒアリシ、諸種ノ巴連舍  
 寐質内藏ニ生スルセーチセルキユス、及エキノコ

キユス等ナリ、  
 内部ニ在ル蟲ハ、卵子又小蟲ニテ體內ニ入り、而  
 ノ保生スル所以、未タ之ヲ詳カニセス、唯腸蟲ハ、  
 卵子又小蟲ニテ、食物ニ和レテ腹内ニ入り、保生  
 スル者ナルヲ知リ易レ、レ一ホルト氏詳説アリ、  
 今之ヲ揭示ス、

リクテル氏ノ説ニ據ルニ、タエニアソリウム、及  
 アスカリスリウムブリコイテスノ卵子又魚類  
 ノ内藏蟲ノ卵子ハ、水ヲ盛リテ密閉セル罎内  
 ニ貯フレハ、年月ヲ經ルモ、外形變スルヲナシ、

少許ノ蠶乙典埵諸母尼亞、醋、硫水素氣、硫黃諸  
 母尼亞ヲ注ク水ハ、稍害アリ、然レモ二三月間  
 ハ、尚生ヲ保スルナリ、水ヲ盛リタル罎内ニ入  
 レ、日光ニ曝スレバ、二夏二冬皆害ナシ、或ハ乾涸  
 スル者モ、再ヒ水ニ浸セハ、復タ蘇生スルナリ、  
 故ニ腐敗物内、異物内ニ在テモ、數年間能ク害  
 ヲ受ルヲナシ、是ヲ以テ水ニ乘レテ流レ去リ、  
 遙カニ遠所ニ達スヘシ、但シ水中ニテハ、發育  
 セス、人身或ハ獸體ニ入ルニ及テ、始テ發育ヲ  
 得ル者ナリ、リクテル氏内藏蟲卵子ノ保生ス

ル所以ノ理ヲ詳説スル書アリ就テ見ルヘシ、  
則チ小蟲ノ發生及ヒ増息スルノ理ヲ知ルニ  
足ル余更ニ附言シテ曰ク、卵子多クハ遠所ニ  
達スヘシ、而シテ其母蟲ニ附屬スルノ間ハ、決シ  
テ發育スルコトナシ、アスカリスリユムブリコイ  
デス、オキセーウリスフルミキュラリス、トリコ  
セパリュスジスバル、タエニアソリユム、及ボトレ  
イセパリュスハ殊ニ然リ、故ニ人身腸内ニテハ、  
卵子ヨリ漸ク發育シテ、全成スルニ至ル迄ノ  
數等ノ階級ヲ見ルコトナシ、唯其兩極  
卵子、全成ヲ見

ルノミ、若シ夫レ小蟲其生スル部ニ於テ、直チ  
ニ發育スルコトヲ得ル者ナルキハ、蟲病患者ノ  
腸内、全然蟲ヲ以テ充盈スルカ如キ不幸ナル  
者必スアルヘキナリ、又腸蟲ノ卵子、大便ニ隨  
テ漏レ去リ、長短ノ迂路ヲ經歷シテ、復ヒ他人  
ノ腸内ニ入り、是ニ於テ始テ發育ヲ得ルコトア  
リ、但シ是レ偶然ノコトニテ、幸ニ多カラズ  
人身ノ内部ニ在ル蟲卵、及ヒ蟲ヲ説クコト難シ、然  
レモ某ノ動物、貝介魚類、ニ於テハ、トレマトデン  
ラルヘシ、及テトラルレシセシハ、現ニ組織ヲ穿

開シテ、他部ニ轉移スルコトアリ、又血行ノ道ニ沿  
テ轉移スルコトアリ、生活スル獸類ノ血中蟲アル  
ヲ見ル、然レモ人身ニハ絶テ無キ所ナリ、但シケ  
レシケ氏一經驗アリト云フ、蓋シ腸内ノ蟲、一道  
ヲ穿開シテ、血管中ニ入り、血液ニ乘レテ、巴連舍  
麻質部ニ出ルコト勿ルヘキニ非ス、

此説ハ近今蟲學家ノ唱フル所ナリ、膀胱蟲ト  
蛔蟲トハ大ニ親和スル者タルハ、從來稱スル  
所ナリ、近時レールホルト氏、キュセンメーステル  
氏、テワルド氏、試験シ、決定シテ曰ク、兔ニ在ル

セースチセルキユスヲ取テ、食物ニ和シテ、犬ニ  
食セシムルニ、其腸内ニ入テハ變シテタエニ  
アトナル、其形状異ナル所以ハ、發育全カラス、  
生殖機備ハラサルヲ證スルニ足ル、故ニ人身  
腸内ニ生スル蟲モ、迷歩シテ血管ニ入り、肝或  
ハ腦ニ至ルコトアルモ、其部ハ蟲ノ發育増息ス  
ルニ適セサルカ故ニ、發成全カラス、頭ヲ生セ  
スノ、尖端ニ囊ヲ生ヌルコトアルナリ、  
體內ニ入ルノ蟲卵、及ヒ蟲ノ發育成息スルハ、後  
件ニ由ル、則チ幼少ノ年齢、小兒ハ蟲病多シ、胃腸



汚物食物不佳ニノ消化シ難キモ、他病ノ續症ナ  
ルモ、又本病ナルモ、同シ、粘液熱是ナリ、ロデレル  
氏、ワルレル氏、千七百六十年、ゴツキンゲンニ於  
テ、歴驗スル所ノ粘液熱、皆腸蟲ヲ合併スル性アリ、  
蟲病大ニ行ハル、トアルハ、此理ニ由ルナリ、  
又荷蘭及ヒ瑞士ニテハ、地方病タリ、而シテ「  
ニテハ、風俗攝生、全ク瑞士ト同シケレド、蟲病極  
テ少ナレ、又エントツア「ハ、某ノ地方ノミニアリ、  
ヒラリア「ハ、回歸線下ノ地方ニ在リ、ボトレイオ  
セバリユス「ハ、孛連、魯西亜、瑞士、佛蘭西ノ某ノ地方

ニ在リ、而シテ「エニア「ハ、日耳曼種ノ人ニ多シ、  
腸蟲ノ症候極テ差異アリ、或ハ全ク知ルヘキノ  
症ナク、其漏泄スルニ及テ、始テ之ヲ知ル者屢之  
アリ、又腸蟲久レク體內ニ潛伏シテ微害ヲモ爲  
サ、ルアリ、又腸内夥レク蟲ヲ存シ、而シテ少シモ  
之ヲ察スヘキ者ナキ「アリ、  
羊、家猪、犢牛ノ肺ニハ、全ク小蟲充盈スル者屢之  
アリ、而シテ其生活時間之ヲ知ルヘキ者ナシ、又ヒ  
ラリア「體內ニ在ル「十二月、乃至十五年ニシテ、少  
害ヲ為サ、ル「アリ、此ノ如ク刺戟物體內ニ在

テ之ヲ知ルヲナキ所以ハ患者體質又其蟲ノ在  
 ル部感覺遲鈍ナルニ由ル又一ニハ其蟲組織ヲ  
 被包スルノ粘液内ニ纏ハルニ由ル或ハ卒然ト  
 ノ諸症蜂起スルヲアリ其症或ハ蟲ノ為ニ發ス  
 ル脈管刺衝ノ續症ナルアリ焮衝熱或ハ神經交  
 感ノ續症ナルアリ局部或ハ全身痙攣癲癇舞蹈  
 病秦漢屈麻痺或ハ有形障害ノ續症ナルアリ腸  
 蟲集積レテ塊ヲ為セハ大便通利ヲ障害レ膽管  
 蟲ハ膽汁膀胱蟲ハ小便漏泄ヲ妨ク或ハ數多ノ  
 蟲アルカ故ニ滋養物缺乏スルノ續症ナルアリ

ロヲ外部ニ開クノ空隙内ニ在ル蟲ハ良能巧ニ  
 能ク之ヲ排除スルヲアリ  
 諸蟲ノ治法ハ局部症條下ニ於テ詳説スヘシ

侃斯達篤卷之八終

--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--

侃斯達篤內科書

坪井信良先生譯  
初編刻成二編三編嗣刻

初編八卷血液病二編三卷神經病三編三十三卷定類病合して四十四卷  
 以上第一輯トス四編六十餘卷分テ第二輯第三輯トス通計一百餘卷以  
 テ全弓ヲ終フ今毎月二卷ヲ刻ス四年ニシテ全編成功ヲ期スヘシ  
 夫レ歐羅巴各國諸名哲相競テ各自ノ學術ヲ研究シ皆其秘蘊ヲ尋ヌ而  
 各國自ラ所長アリ醫方解剖ノ學ハ古來日耳曼ヲ以テ超拔無比トス侃  
 斯達篤氏ハ日耳曼都府大醫學校ノ一巨擘ナリ其著書博ク古今諸家ノ  
 說ヲ搜索シ之ヲ斷スルニ自己獨得ノ卓識ヲ以テス論辨詳悉義理通快  
 且ツ近今發明經驗スル所ノ良方奇藥載セサル者ナシ實ニ刀圭家ノ一  
 大寶筏ト云ヘシ學者舊套ヲ脱シテ豁眼ヲ開キ之ヲ熟讀翫味セハ病者  
 ヲ診スルノ際意解默識スル所アリテ正案一定シテ迷想立ニ消シ處法  
 則チ成リ藥効意ノ如ク運匙輕易自ラ神助アルヲ怪シムニ至ルベシ四  
 方ノ君子全編成功ノ日ニ於テ西洋醫方ノ真面目ヲ領解セハ則チ濟生  
 ノ術ニ於テ裨益スル  
 所豈ニ僅少ナランヤ

明百原病論

坪井信良先生譯  
全四卷近刻

和蘭第二等醫官海軍隊衛生督ホシベフシノールガルホルト氏嚮ニ  
招ニ應シテ長崎ニ在留シ生徒ヲ教誨スル日講述スル所ニテ則チ獨逸  
備實氏内科書編首ニ掲クル原病總説ヲ抜抄スル者ナリ西洋醫風近三  
十年來大ニ變革スル者アルヲ知ルヘキ階梯ナリ

新藥百品考

坪井信良先生譯  
全四卷近刻

和蘭醫官アツセンブレン子ル氏藥舖某生ノ需ニ應ニ其舖所藏ノ新藥  
類四百九十品ヲ撰ヒ每品能毒用法等ヲ畧記シ初學ヲシテ某ノ品ハ某  
ノ効アルヲ領解セシムル為ニスル所譯本全五卷中更ニ其最モ新奇ニ  
ノ應用未タ世ニ詳ナラサル者百品ヲ抄摘スルナリ夫レ三港開市以來  
蕃船相接シテ輻湊シ各々新ヲ呈シ奇ヲ貢ス而ノ齎ス所ノ藥品邦人ノ  
耳目ニ慣サル者往々少ナカラス濟生ノ士大ニ之ヲ遺憾トス今此一書  
一タヒ世ニ出ルキハ新奇ノ妙品猶慣手品ニ異ナルヲナク運用意ノ如  
ク起死回生庶幾スヘキナリ

佩斯達篤内科書全部

一百余卷

本所豎川三ノ橋

萬屋兵四郎

日本橋通二町目

山城屋佐兵衛

發販書林

難波町

島村利助



四冊  
キ

